

第1回 産学官連携利用推進委員会 議事概要

1. 日時：平成18年3月20日 13時30分～16時30分

2. 場所：世界貿易センタービル WTC コンファレンスセンター 3階 Room C

3. 出席者(敬称略)：

委員：石原(東京大学大学院)、中村((株)富士通研究所)、広瀬((株)豊田中央研究所)、竹村((株)東芝)、太田(俊)(東京大学大学院)、糸崎(大阪大学大学院)、太田(浩)((独)産業技術総合研究所)、米澤(東北大学大学院)、寺田(東邦大学)、今井(旭化成(株))、谷口(文部科学省 産学官連携コーディネーター)
JASRI：大野、永田、渡辺、古宮、辻、小西、射延

4. 配付資料：

資料1・・・第1回産学官連携利用推進委員会について

資料2・・・SPring-8の概要説明

別添資料・・・産学官連携利用推進委員会運営要領

5. 議 事

- (1) JASRI 大野専務理事より挨拶を行った。
- (2) JASRI 産業利用推進室長の渡辺より産学官連携利用推進委員会の設置背景、目的と進め方の説明(資料1)を行った。
- (3) 出席者の自己紹介を行い、産学官連携利用推進委員会運営要領にしたがい、石原委員長の承認、副委員長として中村氏の推薦・承認を行った。
- (4) 産学官連携利用推進委員会運営要領にしたがい、委員会成立の確認を行った。
- (5) JASRI 産業利用推進室長の渡辺より SPring-8 の概要説明(資料2)を行い、以下の様な意見が出された。

1)委員会での検討内容について

- ・これまでの産業界の利用拡大施策から次の方向性を議論する。
- ・JASRI の考え方(ビジネス・モデル)を前提にした議論であるべきで、早急に提示すること。
- ・委員会の課題あるいは目標の明確化を行うこと。
- ・学術的成果と産業界の活用は十分であるが、国を支える基盤技術や基幹産業を支えるには、どのような施策が必要かを議論しては。
- ・分析サービスをどうするか、あるいは、よりビジネスに近づいた時の対応をどうするか、その考え方を討議しては。

2)現状認識と課題

- ・これまで産業利用では学に対して垣根(独立性)を持たせることで利用者・業界分野の裾野が広がり利用拡大に成功している。
- ・今後は、この独立性が弊害になる可能性も懸念される。
- ・学と産の連携では利用制度の面だけでなく、文化の面で隔たりがある(目標目的、時間スケールが異なる)。
- ・SPring-8 は国が整備すべき、提供すべき先端的な研究施設として位置づけられている。

- ・全く違った目的をもつ学と産との利用者に対して、同じ制度の中で同じチームタイム配分(シフト配分)調整することが難題となっている。
- ・公的研究機関と民間との共同研究では対研究者で組むのに対して、SPring-8では対装置になり、シフト配分もあることから共同研究スキームは容易ではない。
- ・今後、知的財産、利益相反研究への対応を考える必要がある。

3) 制度・仕組み

- ・現場に近い産業界に於いても役立つことは分かってきたものの、利用には敷居が高いので旨い仕組みを考える必要がある。
- ・中小企業やベンチャー企業がもつ課題と大学がもつ評価解析技術との産学連携で潜在的利用者の囲い込みを。
- ・府省連携による政策に合った利用制度の仕組み作りを。
- ・利用者にとって使い易くするような仕組みを話し合えれば。
- ・年2回の公募の見直しや申請書作成の支援などの仕組みを。

4) 利用技術

- ・学と産との結びつける機能強化で、産学連携で手法開発とその利用をタイムリーに進める。

5) 支援内容

- ・利用相談、技術支援、解析支援と、入口から出口までの一連の支援がある。

(6) 次回のスケジュールについては7月以降に開催予定で調整する事となった。

- 以上 -